

平成26年度
入学試験問題

国 語

特待生
後期

受験番号	氏 名

中村中学校

□ 次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- (1) かれは研究にヨネンがない。
- (2) ノウリツの上がる勉強法を教える。
- (3) 景気回復のチヨウコウがみられる。
- (4) 祖母からゆずり受けたキヨウダイ。
- (5) 色のタイショウがあざやかだ。
- (6) 転んでカンセツがはずれた。
- (7) 青をキチヨウとした絵画が多い。
- (8) 成功をオサめる。
- (9) チームにカがソナわる。
- (10) 案をネリ直す。

〔二〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。（設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。）

＊字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

映画製作の中でも近ごろはコンピュータグラフィックスというとても素晴らしい発明品が役立つている。激しい戦争シーンというものを映画の中で描く時、かつては火薬を扱うプロフェッショナルの人たちが、画面の中に上手に火薬を仕込み、そしてボタンを順次押していくことで、爆弾が炸裂していった。その間を兵隊に扮した役者たちが駆け抜けていく。鍛えられた人たちがうまくタイミングを計って駆け抜けていくわけだが、人間がやることだから、必ず間違いがある。タイミングがほんの少しずれただけで、僕たちの仲間の多くの映画人たちが手や足を失い、時には命を失っていった。僕たちが映画館の中でポップコーンを食べたり、コカ・コーラを飲んだりしながら、「すごいなあ」と言って見ている戦争シーンで、実は多くの人が傷ついたり、命を落としていたりしている。

A 現代ではコンピュータグラフィックスのおかげでどんなことでも映像にすることができる。机の上で映像を作ることでもできる。どんなに壮絶な戦争シーンを描いたとしても、誰も怪我をしないし、命を失うこともなくなった。これは科学文明のおかげであ

る。でも、人間には（Ⅰ）好奇心というものがあるので、一度に五百人が死ぬ戦闘シーンを描くことができ、それを映画館に集まった観客が拍手喝采して喜んでくれたとすると、今度は一度に千人殺してみせよう、一万人が同時にぶっ飛んだらどうなるかと考え出す。

B より残酷な方向へ向かっていってしまう。かつては到底描くことができなかった、弾丸が飛んできて体の中を突き抜けていく、

C 目の前で手や足、首が飛ぶというシーンも作ることができるようになった。

人間には（Ⅱ）というものもあるので、更に更により残酷なシーンが生まれていく。こうして生まれてきた映画を観客は見る。そのこの意味はあるだろう。それによって戦争というものの残酷さ、恐ろしさを知り、ああ、戦争はいけない、僕たちは戦争をやめようと考えさせる力になる。これは大切なことだが、同時に僕たちはもっとすごいシーンを見たいという気持を持っている。ここが人間の難しさである。

かつてコンピュータグラフィックスによる表現を持たなかった時代に、こんな戦争映画があった。ロンドンの町に来る日も来る日もドイツからロケット弾が飛んできて町中が爆破されていく。でも、この映画には爆破シーンはほとんど出てこない。地下の暗い防空壕と呼ばれる穴の中に、ひと組の若い夫婦と生まれたばかりの赤ん坊

がいる。防空壕の上の地上では、明るい日が射し、爽やかな風が吹き、川が流れ、そこに緑の芝生があり、白いペンキ塗りのかわいい家がある。家の前の庭にはブランコがあり、もし戦争がなかったらこの庭で夫婦は赤ん坊を抱いて幸福に暮らすことができる。けれども今は戦時下、毎日毎日暗い闇の中で、僕たち観客も一緒に過ごさなければならぬ。ドカーン、ドカーンという爆弾の音だけが聞こえてくる。ああ、もういやだ、はやくあの地上に出て緑の芝生の上で、日にあたって風に吹かれて暮らしたいなあ、観客である僕たちも願っている。映画の終りにようやく平和が訪れる。それまでずっと続いてきた爆発音がふいにやむ。悪魔の哄笑のような破壊の音がふつとやむ。耳を澄ますと地上の小川のせせらぎや風のそよぐ音まで聞こえてくるような気がする。この静けさ。この穏やかさ。ああ平和がきた、と皆ほっとする。

その瞬間、それまでお母さんの胸に抱かれてすやすや眠っていた赤ん坊が急に（Ⅲ）激しく泣き出した。なぜかという、その赤ん坊は生まれた時から悪魔の笑い声のような戦争の爆撃音の中で、それを子守歌のように聴いてきたから、生まれて初めての平和の静けさの中では眠ることができない。静けさが恐ろしい。だから

（Ⅲ）泣き出してしまった。この場面を見て、まだ子供だった僕はほんとうに胸を打たれた。戦争って怖い、恐ろしいものだな。

④
こんな可哀想な赤ん坊を生み出した戦争というものをやってはいけないな。このようにして、この映画の伝える反戦の思想というものを僕はしっかり受けとめることができた。

現代のコンピュータグラフィックスで、首が飛ぶシーンや腕がもがれるシーンを見て、たしかに戦争はいけないと思う。しかし、それはほつぺたをピシッと叩かれて、「痛いだろう、だからやめなさい」と言われているのと同じようなものではないだろうか。昔の映画は赤ん坊の泣き声一つで戦争の恐ろしさを教えてくれた。一つの芸術として果たしてどちらが優れているのだろうと考えてみると、^⑤ どうも昔のコンピュータがなかった時代の表現の方が遥かに優れた芸術表現だったのではないか。

ここで言えることは、芸術には欲望を抑制する力があるということである。人間の好奇心が暴走し過ぎないように、そして好奇心によって生まれる文明、科学技術というものが行き過ぎて凶器にならないようにとどめる力、これが芸術の力あるいは役割ではないかと僕は思う。

芸術を生む動機というものはたしかに激しいものである。でも激しいだけでは戦争と同じである。昔教科書で「詩歌とはしづかなるところにて思いおこしたるもの」という言葉に出会った。このように、激しさを穏やかさに変えていくことによって、願いや夢をくっ

きりと伝わるように語っていくのが芸術である。芸術とは人に伝えるものである。自分の激しい怒りや、激しい感動をそのままぶつけたのでは受け手にとっては喧しいだけだ。その気持ちをふっと静かに穏やかにおさめることによって、初めて相手の耳に届き易い音量に、あるいは聴き取り易い言葉になっていく。これが人に伝えるための言葉としての本来の芸術の力である。伝わり易くする力を人間が持つ、思えば平和とはそういうことである。安らぎとはそういうことである。

〔大林宣彦「芸術」〕

『いまを生きるための教室―今ここにいるということ―』所収)

※哄笑……高笑い。

問一 ――線「上手」とありますが、次のA、Bの「上手」は本

文とは異なる読み方をします。A、Bの――線部の読みをそれぞれひらがなで答えなさい。

A 私よりも彼女の方が一枚上手だった。

B 主役が舞台の上手から登場する。

問二 ――線①とありますが、「コンピュータグラフィックス」

のどのようなところが「素晴らしい」のですか。本文中の言葉を使って五十字以内で答えなさい。

問三 ――線②について、これはどのような様子を表したもので

すか。最も近い意味を持つことわざを次から選び、記号で答えなさい。

ア、花より団子 イ、地獄の沙汰も金次第

ウ、対岸の火事 エ、笑う門には福来たる

問四 A C
 く に入る語を次からそれぞれ選び、記号

で答えなさい。

ア、あるいは イ、だから ウ、つまり エ、ところが

問五 (Ⅰ) ～ (Ⅲ) に入る言葉として、適当なものを

次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。なお、二つある

(Ⅲ) には同じものが入ります。

Ⅰ ア、あどけない イ、とめどない

ウ、ふがない エ、さりげない

Ⅱ ア、恥の上ぬり イ、下手の横好き

ウ、とりこし苦労 エ、怖いもの見たさ

Ⅲ ア、火がついたように

イ、鬼の首をとったように

ウ、坂道を転げ落ちるように

エ、飼犬に手をかまれるように

問七 —— 線④とありますが、「赤ん坊」のどのようなところを

筆者は「可哀想」だと言っているのですか。それを説明した

次の文の (1) ～ (3) に、本文中の言葉をそれぞれ

指定した字数でぬき出して答えなさい。なお、二つある

(2) には同じものが入ります。

生まれたときから (1 ※十六字) を当たり前のも

のと感じて過こしてきたために、戦争が終わってようやく訪れ

た (2 ※六字) に皆が胸をなでおろす中、その赤ん坊

だけは泣いて眠れなくなるほど (2) を (3 ※四字)

と感じてしまうところ。

問八 —— 線⑤とありますが、このように言うのは、筆者が、「芸

術表現」をどのようなものだと考えているからですか。本文

中の言葉を用いて五十五字以内で説明しなさい。

問六 —— 線③とありますが、筆者は、どのような点に「人間の

難しさ」を感じていますか。七十字以内で説明しなさい。

〔三〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

* 字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

五番ホームにはいつも風が吹いている。午後四時三十七分発、後ろから二両目。

—— いた。ほとんど同じタイミングでこちらに気がついた三谷くんが、I 笑う。それだけで日陰からII 日の当たる場所へ出たような気持ちになる。身体が熱を帯びる。

水曜日にはこの電車で三谷くんと会う。約束しているわけではなく、この電車に乗ると決めていているわけでもなく、水曜日だけ授業の都合で帰りの電車が一本遅れるのだ。三谷くんが普段もこの電車に乗っているのかどうか私は知らない。知ってしまったえば

一 a I。それが怖い。

これまでずっと日の当たらないところをIII 歩いてきた。

この人にこうして会うようになって、私はどうなっていくんだろう。もしも会えなくなったら、私はどうなってしまうだろう。そう考えるだけで怖い。

考えたくないことはできるだけ早く頭から追い出す癖がついている。それがうまくいかないこともあるけれど、こうして三谷くんの笑顔を見れば大概はもうだいじょうぶだ。週に一度、三十三分間。

電車の中では三谷くんのことだけを見ている。

① その男の人を見たのは去年の秋、学校帰りの私鉄のターミナル駅だった。私は同じクラスのコリエとふたりで構内を歩いていて、その人がふたり連れの男子高校生にずっとついて歩いているのに気がついた。歩いている、本人はそのつもりなのだろうけれど、少し宙に浮いていた。

咄嗟に顔を背けた。関わらないに限る。見なかったことにしようと思った。コリエはもちろんまったく気づいていなかったし、そのまま通り過ぎてしまえば済むことだ。

でも、できなかった。理由はつまらないことだ。その男の人が、父となんとなく似ていた。母とは一年前に離婚して、離れて暮らしている不実な父。しばらくはゆるせなかったけれど、ひと月に一度会う、そのたびに精彩を欠き、萎んでいくように感じられた。あれだと思った。

コリエとはいつものようにホームへ続く階段の下で別れた。それからちょっと小走りになって追いついて、どうかしましたか、と声をかけた。その人はゆっくりとこちらを振り向いた。

向き合ってみると、父とは似ていなかった。年恰好が同じくらいだというだけで、父よりも体格がよく元気そうで、こんなところ

③で男子高校生を追いかけているのが奇妙な感じがした。あわれというなら、この人のほうがそれだけあわれでもあった。

声をかけられてとても驚いた顔をしたその人は、すぐに私が声をかけた意味を知ったようだ。カメラ、とひとことだけはっきりといった。私はうなずいて、先を歩いていく高校生の後を追った。

相手の反応は見えていた。たいていいつも同じなのだ。

「カメラ、っていつてる。背の高い、四十代後半くらいの男の人。えーと、ラルフローレンの白いポロシャツ着てる。カメラっていえばわかるからって」

A
その子は怪訝そうな顔で私を見ていたが、やがてその顔からB
の気が引いた。

「ふざけるな」

怒りを露わにして人混みの中へ走り去ろうとする背中に、

「カメラだって」

叫んだけれど、届いたかどうか。

走り去った子の連れだったのが三谷くんだった。知らない女子高生に突然おかしなことをいわれ、かと思うと、友人は尋常じゃない反応を示す。わけのわからない現場にひとり取り残されていた。彼は

一度、離れてゆく友人の後ろ姿を見、それから私のほうを振り返った。

「カメラがどうかしたの」

④
拍子抜けするくらい普通の声だった。鳶色とびいろっていうのはトンビ

色のことだろうか。不意にそんな疑問が頭に浮かんだ。あの、空高く悠々と飛ぶ、くるりと輪を描く、^⑤（ ）をさらう、トンビ。

それとも、何か別の色のことだろうか。この子の目はトンビの鳶色だ、と私は思う。

「さっきの子に、誰か、たぶんすごく身近な人だと思うけど、伝えたがってたの」

「背の高い、四十代後半の男の人なんだね？」

「うん」

「カメラ、って？」

「うん」

こんなに普通に会話が続いたのは初めてだった。私が声をかけると、たいていその場は混乱する。ただ伝えてあげただけなのに、怖がられたり、怒られたり、泣かれたりする。少し、あるいはかなり、おかしい人だと思われることもしばしばだ。だからよほどのときでなければ声をかけず知らん顔をして通り過ぎてしまふのだ。

「それはきつと——あいつのお父さんだね、先月亡くなった」

「そう」

「カメラを形見に遺したとか、そういうことなのかな」

鳶色の瞳^{ひとみ}がじっと私を見つめていた。

「わかんない。ただカメラっていわれただけだから」

「そっか。ともかく、ありがとう。あいつ動転^⑥してたけど、きっと後になったら感謝すると思うよ」

「だいいけど」

じゃあ、といって私たちは別れた。

ところが気がついたらふたりして同じ車両に乗っていた。何人かの乗客の向こうとこちらで同時にお互^{たが}いに気づいて、視線を外すか会釈^{えしやく}しようかと迷ったその瞬間^{しゆんかん}に相手がにこっと笑った。鮮^{あざ}やかな笑顔だった。負^⑦けた、と思った。

もっと、驚くとか、気味悪がるとか。もしくはあからさまな好奇心を見せるとか。そういう反応しか受けたことのなかった私は、彼のトンビを思わせる瞳やはっとするような笑顔を見る前に、彼が私と普通に話してくれたその時点で、すでに負^⑦けていたのかもしれない。

(宮下奈都『よろこびの歌』)

問一 I III にあてはまる語を次からそれぞれ選び、

記号で答えなさい。

ア、にこっと イ、ひっそりと ウ、ぎらぎらと
エ、ぐるりと オ、ぱあっと

問二 【 a 】に入る言葉として適当なものを次から選び、記号

で答えなさい。

ア、きつと避けられてしまうだろう
イ、きつと電車を合わせたくなるだろう
ウ、きつと三谷くんと別の時間を選ぶだろう
エ、きつと水曜日が面倒^{めんどう}になってしまうだろう

問三 —— 線①の「その男の人」とは誰ですか。次から選び、記

号で答えなさい。

ア、コリエ イ、ふたり連れ^⑦の男子高校生
ウ、男子高校生についていく人 エ、三谷くん

問四 —— 線②とありますが、この人はなぜ「少し宙に浮いてい

た」のですか。後の内容をよく読んで、十字以内で答えなさい。

問五 ——— 線③とありますが、この人が男子高校生を追いかけて

いるのは何のためですか。二人の関係を明らかにしつつ、三十字以内で答えなさい。

問七 ——— 線④とありますが、「私」が「拍子抜け」したのは

なぜですか。その理由を説明した次の文の にそれぞれ三十字以内で、適切な内容を補いなさい。

問六 ——— 線A「怪訝そうな」・B「()の気が引いた」の語

句の意味について、次の問いに答えなさい。

(1) A「怪訝そうな」の意味を次から選び、記号で答えなさい。

ア、あやしげで心ひかれる様子

イ、びっくりしておびえた様子

ウ、面倒くさくていらいらした様子

エ、不思議で事情が飲みこめない様子

問八 ——— 線⑤は「トンビに()をさらわれる」という慣

用句をもとにした表現です。空らんに入る言葉を次から選び、

記号で答えなさい。

ア、なすび

イ、ぼた餅

(2) B「()の気が引いた」が「恐ろしさのために顔色が変わる」という意味になるように、()の中に入る漢字一

字を書きなさい。

問九 ——— 線⑥とありますが、三谷くんは男子高校生のどのような行動を指してこのように言っているのですか。三十字以内

で答えなさい。

問十 ———線⑦とありますが、「私」は三谷くんのどのような

ところに「負けた」と思ったのですか。次から選び、記号で答えなさい。

ア、死んだ人が見えるという他の人にはない力を持っている自分

分を、三谷くんが全く怖がってくれないところ。

イ、ひと目で三谷くんを気に入った自分を取り立てて気にする

そぶりもなく、ごく普通の反応を返したところ。

ウ、伝言を知らせた相手に怒られるという今まで経験のない出

来事に落ち込む自分を笑顔ではげましてくれたところ。

エ、自分のことをおかしな人だといぶかしがるような態度を見

せるどころか、むしろ親しみを込めて接してくれたところ。